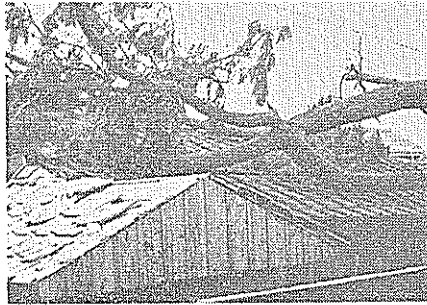


つめ跡を

のこした台風10号

二十一日早朝、高知県に上陸した台風十号は、猛威をふるい、市全域にわたり大きな恐怖と被害をあたえました。



市のうごき

(6月末現在)

| | | | |
|-----|-------------|----|-----|
| 転入 | 178 | 転出 | 213 |
| 出生 | 46 | 死亡 | 40 |
| 人口 | 42,597人 | | |
| | (男 20,959人) | | |
| | (女 21,638人) | | |
| 世帯数 | 12,309戸 | | |



これはまたどえらいやつがやってきた、というのがこんどの台風十号である。湿地帯に築いた県都高知市はあえなく汚物とヘドロによって、その機能を旬日にわたって完全に停止した、しかし、人々は浦戸湾の埋め立てをのりいながらも、また、もとの活気あるまちにかえしている。

▼南国市に残していったつめあとも大きく、大きな痛みというほかになく、復旧への努力も資材不足、人手不足と重なって、まだまだの姿といえるようである。▼天災は忘れたころにやってくるといわれている。地球が生き、人間が住む限り予測しない、また、予測できない天災が、つぎつぎ起ってくることを考え、この教訓を指針とし、みんながあらゆる災害に備え十二分にその対策を練っておくことにすべきであろう。